

## 【概 要 版】会 議 報 告 書

会 議 名	令和4年度矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会
日 時	令和4年12月9日（金）15：00分から16時30分まで
場 所	第一委員会室
出 席 者	矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員

（欠席者）4名

### 1. 開 会（15：00）

### 2. 挨拶

### 3. 議 事

（1）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ・地方創生推進タイプ）に係るK P I の令和3年度実績値の報告について

（2）矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の令和3年度実績値の報告について

○事務局から（1）デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ・地方創生推進タイプ）に係るK P I の令和3年度実績値の報告について及び（2）矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係るK P I の令和3年度実績値の報告について、資料に基づき説明を行った。

### 【質疑・意見等】

○委員から出た主な意見は以下のとおり。

- ・地方創生拠点整備交付金の方では、スポーツ合宿拠点整備事業の一つとして、片岡トレーニングセンターを改修し、この使用料、スポーツ交流人口、年間宿泊者数を KPI として挙げている。スポーツ合宿については、矢板中央高校のサッカー部、バスケット部、ソフトボール部が強豪となってきたおかげで、かなり他県からの高校生の合宿が増えている。
- ・サッカーは矢板中央校から、関東プリンスリーグに2チーム参戦している。10 チームのホームアウェイ方式でやっており、地元矢板で20 試合組まれている。
- ・バスケットボールも今年から関東リーグが始まり、1都7県の8チームで矢板でもホームとして4試合あった。こういった交流が増えてきているので、整備とともに、矢板に来てよかったというイメージを持つような取組をしてもらいたい。
- ・スポーツ合宿については、矢板市の地域おこし協力隊であった空手家の方が取り組んでいた。
- ・空手合宿誘致を中心にやってきたようだが、やはり矢板中央高校の生徒が、対外試合で多数来るということで、これはスポーツツーリズム等、経済波及効果も大きいので、市の施策として一つ大きな柱になるのではないかとということで市も進めてきた。
- ・その方は、日本で唯一のスポーツ合宿に特化した旅行会社と連絡を取ったり、地域の様々な団体とも連絡を取り、体験も取り入れながら、スポーツ合宿を誘致しようとしていた。ただ合宿するだけでなく、農業体験など様々な観光体験を取り入れることによって、より印象が深くなるということ、東京の旅行会社のセミナーで述べている様子がネット記事になっていた。
- ・ただ城の湯温泉を整備するというだけでなく、駅東にできる複合施設や片岡トレーニングセンターなど、いくつか点として散らばっているものを有機的につなぎ合わせて、スポーツ交流人口を増やしていくことは、大きな柱の一つなのではと感じている。
- ・片岡トレーニングセンターの現場を確認したところ、改修したとはいえ、もう少しトレーニング機器はバージョンアップしないと、スポーツ合宿に耐えられないように感じた。また、隣接している片岡グラウンドも費用対効果はあまりよくないと感じているので、稼働率をもっと上げられる努力をしてもらいたい。

- ・次に農林業振興拠点整備事業について。道の駅の売り上げ、利用者数については申し分ないが、農業関係の立場からの意見はどうか。
  - ・自分自身生産者のため、最近とてもお客さんは増えている。ただ平日は若干お客さんが少ないという日もある。
  - ・やいたブランドの件数が少ないことが数字から見てわかる。今一度、矢板ブランドそのものを見直して、やいたブランドをもう少しPRできる場所があれば、もっとお客さんも多くなると思う。
  - ・また滞在時間について、ただ買い物に来てそれだけで帰ってしまうのではなく、何か矢板ならではのもののPRを。あとはどうしても農業者中心の道の駅なのかなという気もするので、矢板にも商業関係のいろいろなブランドがあると思うので、そういうブランドのPR等ができれば、もう少し集客の方につながるのではと思う。
- 
- ・やいたブランドは何がネックで発展しないと思うか。
  - ・売れているものは売れていると思う。やいたブランドが始まった当初、定かではないが、誰でもブランド化できたような傾向が見えた気がするので、見直す機会を作っていただければいいのではないかと思う。
  - ・やいたブランドについては、魅力ある品質の良いものは、限られているのではないか。
  - ・これがやいたブランドだ、というように、やいたブランドという名前がついたものについては、宣伝の仕方やPRの仕方考えたほうがいいのではないかと思う。
- 
- ・やいたブランド立ち上げの段階に携わったが、当時、道の駅に商品を置くためには、やいたブランドじゃないといけないという縛りがあったような気がする。それで何とかブランドを取っておきたいというのが、納める人にはあったのではと思う（農業関係の商品は除く。）。
  - ・そうするとどうしても偏りが出てくる。売れるものとなると、やはり食べ物関係が多くなる。
  - ・逆にお客さんのニーズで、こういうブランドが欲しいという声があったら、そういうものを捉えて、こちらからブランド化を差し向けるといった努力もしてもいいのではと思う。
  - ・あまり売上げがないものに対しては、ブランドを下げることも仕方のないことかと思う。
  - ・日頃利用していると思うが、この5千万円程度かけて改装したものが、二重扉のようになっている。その壁を取り払ってもらえないか。広くしても分離されているような感じで、お客さんが流れづらいと感じる。
  - ・道の駅の建物上の問題だが、風除室という扱いになっており、風よけのために自動ドアを2つ設置している。
  - ・一体化について、設計事務所と協議したが、それはできないということで、風よけの部屋のような形を商品売場に増強した。
- 
- ・未来体育館についてはこれからの整備ということなので、良い施設を作っていただき、より利用者が増えるようにしてもらいたい。
  - ・選手が施設を活用する一方で、応援する保護者や関係者がたくさん集まる。そういった方が矢板に来て試合を見て、そのあと買い物をして帰るような仕組みづくりができないか。せっかく矢板まで来ているのにそういう環境がないという話も聞く。関連した取組をしてもらいたい。
  - ・コロナ禍により、応援体制も把握する形になった。例えばアプリを使ってQRコードで把握するなど、そういった取組が進んでいる。これは来場者数の把握にもつながる。どうしても費用がかかってくるものではあるが、そういったものの活用も視野に入れてはどうか。
  - ・スポーツ交流で来た方が、どうやって市に滞在し、お金を落としてもらおうかが一番のキモ。
  - ・また、各所をつなぐ人が必要だと思うが、その人が矢板市でもできつつあると感じる。
  - ・近い将来にはスポーツ交流で、農業団体などこの合宿を結びつけるような仕組みも出てくるかもしれない。当然お金もそこに落ちてくるということを期待したい。
- 
- ・ネットワークで健幸を推進する「connect with ハピネス」については、矢板市の健康度合いは県内でも上位であり、健康度合いは優れていると思う。ただ、地域間で過疎化しているところがあるので、地域間をどうやってつなげていくのが課題。

- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略の「安定した雇用をつくるとともに、安心して働けるようにする」部分に含まれるものについて、矢板市の仕事の状況はどうか。
  - ・矢板管内の雇用・就業情勢については、新聞発表で全国の有効求人倍率が出たと思う。全国の有効求人倍率が 1.35 倍、栃木県の有効求人倍率は、1.23 倍。これは全国 36 番目である。
  - ・矢板管内は 2 市 1 町を管轄しているが、6 か月ぶりに 1 割を超え、1.02 倍であった。
  - ・矢板市だけの有効求人倍率は 1.15 倍。先月が 1.07 倍だったと思う。順調に上がってきている。詳しい数字でいうと矢板市の月間の有効求職者つまり仕事を探している人は 10 月末時点で 571 人、月間の有効求人数つまり矢板市で出されている求人数が 659 人である。
  - ・ただ、コロナが長期化しており、雇用維持政策である雇用調整助成金の推進を図りながらも、一方で人手不足という会社も非常に最近多い。
  - ・国としては、大臣が言っている「人への投資」は、難しい内容だが、市としては、職業訓練や、従業員の教育など、スキルアップを図るための制度を実施している。
  - ・人材開発推進助成金とか、片方では失業対策、片方ではリカレント教育、そういったものを進めているような状況。
  - ・雇用や求人については全体として、ほとんどの主要産業で増加しているような状況なので、これからもっと倍率も上がっていくのではと思っている。
  - ・幅広い業種において、求人しても人が来ないという話を聞くので、ミスマッチが発生しているようだ。特に飲食業においては、商売も普通に戻ってきている中で、働く人がおらず、休みを作らざるを得ないとか、お店を閉めざるを得ないというところもある。
  - ・大きく見てみると、事業所数はやはり下がっているので、危機感を持っている。パイが縮まっていくということを止める方法がないか、大きな課題として認識している。
  - ・消費人口があまりよくないと感じられるところに、ドラッグストアを中心に、あちらこちらでできているが、これはどういう状況なのか。
  - ・ドミナント戦略と呼ぶが、一気に出店して、シェア取っていきこうという形。
  - ・そういった意味では、矢板だけではなくて、各地で起きている。ドラッグストアの反対に別のドラッグストアが立つのも普通になってきているので、パイの奪い合いという感じである。
- 
- ・2 番目「来てもらおう、住んでもらおう、新しい人の流れをつくる」の中の交流人口、関係人口の創出・拡大について。
  - ・去年も言ったが、子育て世代に矢板を選んで欲しいという気持ちがある。子育て世代にアピールするような施策を打って欲しい、他市を上回るような施策を打って欲しいと考えている。
  - ・令和 2 年度の社会増減率でいくと、人口動態の減少率 1 番的那珂川町が -1.62、2 番の塩谷町 -1.0、3 番が那須烏山市、4 番が茂木町、5 番目が矢板市ということで、依然として社会増減率がかなり高い市であるということがわかる。これについては危機感をもってやっていかないといけないなということを痛感する。
  - ・片岡 3 区の役職を始めた当初は大体 200 世帯あった。それが 9 年後の今は 183 世帯まで落ちた。200 以上あった世帯が 9 年間で約 20 世帯減った。ところがここ 1 年 2 年、転入世帯があり、今まで見られなかった傾向が発生している。しかも、転入してくる世帯は、就学児を持っているような若い世帯である。
  - ・先ほど事務局から説明のように、確かに高齢者は施設に入ってしまったたり、県外にいる家族のもとに行ったりといった傾向があったが、一時的な社会減が緩和されたという印象を持っている。
  - ・行政区を運営していく上で、世帯が減っていくというのは、行政区の活性化が失われて行ってしまうものなので、できれば好転していただきたいというのは、皆さんの考えだと思う。
  - ・荒井地区の役員をやっているが、荒井地区も同じような傾向だと思う。ここ 2、3 年若干転入も増えてきていると思う。
  - ・矢板地区でも増えている地域も見受けられる。
  - ・コミュニティの維持ができなくなってくると、消防団の活動も正直危ない。
  - ・消防団においては 5 年、10 年の間で行き詰ってくると思う。行政区割りや人員不足の問題で活動が難しくなっている部分もあり、その点については考えていかなければならない。
  - ・小学校の校長をしているが、乙畑小学校はつつじが丘がある関係もあり、子供の数は増えているという状況。一時は複式もあったような学校だが、今は 111 名在籍しており、少し増えてきた状況である。子育て世代が増えつつある学校だなというように感じている。

- ・保護者の側から考えれば、教育関係もだが、様々な部分で子育てしやすい、補助金など、メリットを感じるような場所であれば、子育て世代は集まってくる。
  - ・学校も子供たちの数が多いほうが、学校としての活力が出る。地域も同じだと思う。人が集まるような矢板市であって欲しい。
- 
- ・先ほど学校の努力によって、一定数の交流人口が生まれているという話があった。これをいかに活用して、県、市内の経済活動につなげていくかということに、先導力がかなりあるのではと思う。これをどううまく観光や買い物、そういったところにつなげていくかというところが、まさにこれからの総合力を問われている部分かと思う。
  - ・観光人口を呼んでくるのはなかなか難しいが、すでにそういった地盤があるので、そこをいかにうまく使い、矢板市の活性化につなげていくのが、まさに問われている部分かと思う。
  - ・県地域振興課では首都圏に行き、移住定住のフェアなどを行っている。その中で、若い子育て世代については、テレワーク関係も整ってきており、地方で子育てをしたいという話をよく聞く。
  - ・地方の魅力が何か問われている。「矢板市の魅力はこれだ」というのを、矢板市職員が語れるようにして、子育て世代に響いていけば、人口が増えていく可能性もあるのではと感じた。
  - ・昨日の新聞において、移住相談が 5,388 件で過去最高という記事があった。1 位は茂木町で前年比 93 増。茂木町の担当者は、17 年に開設した窓口での手厚い支援が好評で、同町担当者は需要に追いついていない状況で、海外からの移住相談もあると。そんな活況を呈しているとのことで、先ほど部長の話でもあったように、新しく移住相談の窓口を駅東の方に設けるとのことなので、ぜひ先行事例の良い例を参考に、お願いしたいと思う。
- 
- ・スポーツツーリズムだが、とても良い施策だと思う。経済効果は短期的にすぐ目で見えてくるものだが、社会効果というところも見たい。例えば、長期的な視点では、スポーツツーリズムを振興することによって地域の子供たちが矢板を好きになってくれるとか、社会効果というところも考えてもらいたい。経済効果と社会効果を狙っていくことが重要。
  - ・子育て世代について、実際、市外から矢板へ転入された方は一体何を求めて転入されたのか、転出された方たちにコンタクトをとるのは難しいと思うが、なぜ転出したのかを追及して欲しい。
  - ・地方創生が始まったことを考えると、まさに人口減少をどうやって抑えていくのかということがメインとなる。これから矢板でやるべきことは、転入された若い世代に、何らかの形で話をまず聞くこと。そういう方たちの中に有志がいれば、ワーキンググループのようなチームをその方たちだけで作り、矢板に住み続ける魅力や転入してくる魅力は何なのかということ、その方たち目線で、その方たちだけで、考え・発案して何か新しいことをやっていくことも良いと感じた。

### (3) その他

特になし。

### 4. その他

特になし。

### 5. 閉 会 ( ( 1 6 時 3 0 分 ) )